

評価報告概要表

■第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成26年11月27日 (木)

■福祉サービス事業者情報

名 称	華南園	種 別	障害者支援施設
代表者氏名	園長 吉本眞司	開設年月日	昭和48年7月1日
設 置 者	社会福祉法人 山口県社会福祉事業団	定員(利用人数)	54名
所 在 地	〒747-0833 防府市大字浜方205		
電 話 番 号	0835-23-3650	FAX番号	0835-23-3623
ホームページアドレス	http://jigyodan-yg.jp		

■総 評

全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)

◇特に評価の高い点

居室において、利用者の身体状況を考慮し、本人の思いと個性を大切にした上で、利用者と職員が協働し創意工夫された部屋が随所に見られました。また、本年度より始まった利用者の思いや希望をかなえる「特別な日」においては、利用者の思いを引きだし、それをかなえるために職員と協働して取り組む姿を通じて「その人らしさを大切に」という法人の理念を実感することができました。利用者満足度調査の実施と共に、利用者による「自治会」、利用者と施設により毎月開催される「話し合おう会」の開催、担当職員による聞き取りなど、利用者の思いを受け止める機会が多く、利用者と施設職員間の良好な関係性がうかがわれました。また、利用者の重度化の中、生活支援員や看護師、栄養士、理学療法士等専門職の連携のもと、個別支援計画、栄養ケア計画、リハビリテーション実施計画が重層的に作成され、利用者の日常生活における各場面において各種マニュアルが適切に整備され、共通の認識を持った質の高いサービスの提供に努められておられました。そして、嘱託医をはじめ、歯科・耳鼻科・眼科などの医療機関と看護師、理学療法士など施設職員が協働し、利用者の健康管理に細心の注意が図られています。これらは、施設運営に意欲をもたれた施設長のリーダーシップの下、課長、主任、各部門で構成される「運営会議」や各部門職員により構成されている8つの委員会によって効果的に機能し、施設全体における統一された福祉サービスの質の向上につながっています。

◇改善を求められる点

職員の教育・研修に関しては、研修受講カードなどにより研修状況は把握されてはいますが、職員の質の更なる向上を図るためには、職員一人ひとりが持つ技量等を定期的に評価・分析し、その結果に基づいた教育・研修計画が必要となると思われます。法人の施設全体として難しい課題ではありますが、法人運営の透明性の確保を図る観点から、外部の専門家による監査が受けられるよう検討されたい。

■第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

法人理念「その人らしさを大切に」の下、様々なサービスを提供しておりますが、高評価をいただきありがとうございました。この評価に甘んじることなく、改善すべき項目は早急に改善するとともに、入所支援サービスの質の向上、在宅サービス及び相談支援の充実、地域貢献活動の積極的展開など、より良質な福祉サービスの提供に努めてまいります。

評価報告概要表

■評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

I 福祉サービスの基本方針と組織	a	12	b	0	c	0	Na	0
<p>理念が施設内をはじめ、ホームページやパンフレット、広報誌、職員の名刺や名札にまで明記され広く周知するよう取り組まれており、法人・施設として理念等の浸透に対する強い思いが感じられました。事業計画は、法人で作成された5か年の中・長期計画に基づき、施設長をはじめ課長、主任、各部門の職員で横断的に開催される運営会議において、何度も検討・協議がされており、計画策定が組織的に行われていました。この運営会議においては、施設長自らが施設の経営状況等の資料を作成・説明をされ、経営や業務の効率化を図っておられ、その他にも施設内に設置されたサービスの質の向上を目的とした8つの委員会にも積極的に参画されるなど、施設運営に対する施設長の強い意向とリーダーシップが発揮されていました。</p>								
II 組織の運営管理	a	19	b	2	c	1	Na	0
<p>中四国の施設協議会をはじめ県内の各種会議に参加され、事業経営を取り巻く動向を知る機会を作られ、防府市の自立支援協議会を通じて地域の情報についても的確に把握されており、施設の運営に活用されていました。地域と共に歩む施設作りでは、事業所主催の祭りや地元の祭り、スポーツ大会への参加の他、地域住民を対象とした家庭介護者教室の開催など事業所が有する機能を地域に還元されています。法人の中長期計画の中でサービス向上を担う人材の確保と育成が掲げられ、人事考課制度の運用や、自己申告制度による就業意向の把握、職員の資質向上を図る研修受講カードの整備、資格取得助成など、職員を育てる取り組みに工夫が見られます。</p> <p>ただ、組織が求める質の高い福祉サービスを実現するためには、更なる職員の資質向上が必要となります。そのためには、職員一人ひとりの持つ技量や知識などを分析し、その結果に基づいた個別の研修計画が作成され、必要とされる研修や資格が取れるような支援が求められます。</p>								
III 適切な福祉サービスの実施	a	22	b	0	c	0	Na	0
<p>事業計画に「利用者を尊重する姿勢」が明示されており、人権擁護検討委員会を中心として、人権に関する標語の作成や朝礼での唱和、毎月の振り返り、職員研修の実施など組織内での共通理解が徹底されています。利用者で組織する「自治会」や毎月開催される施設との「話し合おう会」はもちろんのこと、第三者委員の配置や担当職員との会話など、利用者にとって意見や相談がしやすい環境が整備されています。食事、入浴、排泄、服薬管理など利用者へのサービスの質を確保する各種マニュアルが整備されるとともに、職員で構成される各種委員会を通じて定期的に見直し作業が行われており、職員が共通の認識を持ってサービスにあたっておられます。サービスの実施計画については、個別支援計画や栄養ケア計画、リハビリテーション実施計画が個別に策定され、利用者毎のニーズや課題が明らかにされています。これらの計画はサービス管理責任者や各職種による評価会議の中で、定期的に評価・見直しが行われており、利用者に対するサービスが総合的且つ具体的に提供されていることが実感できました。</p>								
IV 良質な個別サービスの実施	a	31	b	0	c	0	Na	3
<p>本施設では、個人の限られたスペースの中、本人の思いを大切に沢山の私物が持ち込まれ、利用者と職員の協力のもと各種工夫が施され、利用者にとって過ごしやすい環境づくりに取り組まれていました。家族には、家族会の総会や年3回の事業所主催の園行事に案内をされておられ、日常的な面会時間も自由で、盆やお正月に家族がこれない場合には、職員が利用者と一緒に同行することもおられました。食事については、定期的に嗜好調査や残食調査が行われ、人気メニューの提供や希望の献立、ユニット毎で作る季節に応じた行事食、出前を取ったり、外食に出かけるなど、食べることの楽しみに関しては職員の工夫が見られました。医療面においても、嘱託医をはじめ、歯科・耳鼻科・眼科などの医療機関と看護師、理学療法士など施設職員が協働し、利用者の健康管理に細心の注意が図られていました。本年度より利用者の思いや希望をかなえる「特別な日」が作られ、利用者の思いを具体化できるよう、職員が創意工夫しながら支援を行っておられ、法人の理念である「その人らしさを大切に」が実感される取り組みが随所に見られました。</p>								